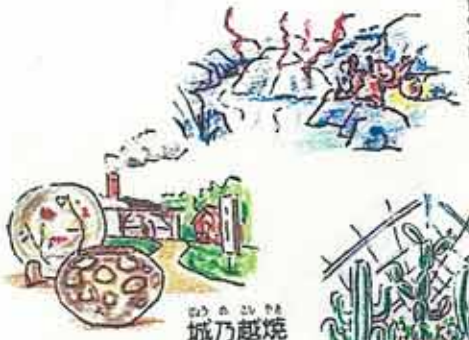
おおがとう町 観光MAP

サクラ街道

大任町の名物として旧国鉄跡地、現在大任中央線六・四Kmにサクラとモミジを植栽。春は花見、秋は紅葉を楽しめる。

チンショキ石

夏の夜、里遠く過っていると、石の下から笛ような声で、「あずき三合に米三合、合わせて六合チンショキショキ」という声が、急をはうように聞こえてくるという言い伝えがありました。チンショキ・ショキは米をとぐ音。昔、農家の暮らしが貧しかった頃、粥が炊るというのに、ボタ餅を作るための米も小豆も買えなかったそうです。そんな貧しさが怨念となって、こんな伝説が生まれたのでしょう。



城乃越焼

日常生活を気軽に使える陶器から白色な発想で生み出されるユニークなかたちを楽しめる。
TEL 0947-63-3233

砂漠植物研究所

世界の珍種やここにしかない品種など貴重なサボテンが育てられている「サボテン園」

総合運動公園

キャンプ場、野球場、陸上競技場があり、自然の中でスポーツや野外活動が楽しめる。

レインボーホール

大ホールや図書館のある「総合福祉センター」と自然見晴らしがよいある「老人福祉センター」を構成されたコミュニティセンター。
TEL 0947-63-4832

B&G海洋センター

プール、体育館、卓球場、バドミントン場などスポーツが楽しめる施設。
TEL 0947-63-4832

成光の滝

岩間に沿って流れ落ちる清流。緑と潤んだ空気に包まれる開放感ある場所。

みんのんさんの池

昔、ふさな山の中腹に年がら年中、滝々と水をたたえる池がありました。干ばつの時は、村人が池をきれいに掃除して、御神酒や御米を供えて雨乞いをしたそうです。ある時、大きな水蛇を池のあった山が崩壊。田園にごろごろ、石土が流れこみ、村人は大変困ったとか。でも、山の持ち主の田吉さんは及ばずながらお池にまつわるお不思議なエピソードのひとつです。

青船神社（東白土）

昔話に登場する「みんのんさんの池」があった場所。

上野焼白川窯

江戸時代初期に細川忠興の命をうけて始められた上野焼。10代続く白川窯ではいろいろ伝統的な作風を作品が作られている。TEL 0947-42-1980

藤ケ淵の大鯰

昔、大任は湖の多くに一軒の魚屋があるあるある日、戸口のそばから唱名の声が聞こえるので、主人が表に出てみると、一人の大きな鯰がいました。百姿は信心を始めました。鯰をふるまったとたんに、魚は安々とおじぎをしながら命乞をし、「明日、やってくる蛇の魚を源に入れないようにしてください」。翌日、百姿は仕事に夢中になってしまい、釣竿を担いで出かけたのは昼頃。帰ってみると、源の島口に張り紙が貼られた鯰が源に浮いていました。よく見ると、破れた張り紙からは赤鯰がはみ出していたとか。

十輪院

高野山金剛峯寺の末寺に属し、本尊を千手観音菩薩という。文殊菩薩の寺として有名。

菜の花館

大任町の農作物を売所。大任町の新鮮な野菜、農産加工品、手作り工芸品、民芸品などを展示・販売している。
TEL 0947-63-2339

出雲大社分神

縁結びの神様・出雲の神様が祭られている。昭和55年に創建された新しい神社。

うめき石

昔話に登場する石。夜になるとうめき声が聞こえると地元の人々に恐れられていた。

ゴルフ場（嵐羽ロイヤルカントリークラブ）

ナイター施設が整備され、年間利用者約10万人を数える。
TEL 0947-63-2900

イチイガシ

幹まわり約4m、樹高28mの大樹。県の天然記念物として指定を受けている。

イチイガシ

菅原神社の大樹・イチイガシ。樹齢は定かではありませんが、三百年ぐらいと言われています。地元では「この樹を「イチガ」、「ボの水」と呼び、町のシンボルとして親しんでいます。大人たちは樹の実を神事のお供え物に、そしてまた子どもたちは遊びとして食べたり。イチイガシは、夏かは枝をゆさゆさと風にゆらがせながら大任町の歴史を静かに見つめ続けています。

うめき石

昔、安永峠という人気の少ない峠がありました。ある秋の夕方、一人のなが暗くならないうちにと峠越えを急いでいたところ、急に右腕が痛みだしました。歩きだそうとすればするほど痛みはひどくなる一方。とうとう、もう一歩も前に進むことができなくなり、前方の道端の石に腰を下ろしました。急に痛みが激しくなってきます。人気のない真っ暗な山の中、助けを求めることもできず、うめき声だけが大きくなりました。そのうち、旅人の意識は薄れていき、声は消えてなくなり、あとには石だけがうめいていたそうです。